

セッション 8 教育・管理運営

座長：林 寿恵

演題番号33 石坂 有佳

	質問	回答
1	在宅復帰は本人の希望と家族の協力が最大要因と考えますが、如何でしょうか？	貴重なご意見ありがとうございます。先生のおっしゃる通り、本人の希望と、ご家族の受け入れは大前提だと考えます。今回は自宅退院群と非自宅退院群での単純な比較となっており、本人とご家族が自宅退院を希望していたかどうかまでの検討は出来ておりませんでした。今後の参考にさせていただきます。
2	FIM項目の中でも特に自宅群と非自宅群で優位さがあつたもの、検討なければ印象でも構いません、ありましたら教えていただければと思います。	ご質問ありがとうございます。今回の研究では、入棟時FIMでは、[食事・整容・トイレ動作・排尿・ベッド移乗・トイレ移乗・認知項目]において特に有意差が大きく、退院時FIMでは、[食事・整容・入浴・更衣(上下)・トイレ動作・排尿・排便・ベッド移乗・トイレ移乗・風呂・シャワー移乗・歩行・車椅子・階段・認知項目]において特に有意差が大きい結果となりました。

演題番号34 佐藤瑞華

	質問	回答
1	ストレスの相談内容で、重要なキーワード(声掛け)をご教授下さい	上司に関しても、同僚に関しても、「きつ Payne」などと共感することがみんなきつ Payne 中頑張ってるから頑張ろうと思ひ、ストレス軽減に繋がるのではないかと考えました。また、この状況(大変な状況)は長くは続かないからということも伝えていくと良いと考えています。

演題番号35 西田 圭吾

	質問	回答
1	感染対策上、一番苦慮・工夫された点についてご教授下さい	苦慮した点→情報の統一化が1番の問題点でした。今回報告させて頂いた病棟以外にも隔離病棟となっており、各病棟毎に情報をまとめ、全スタッフへと統一させる事が難しかったと思われまふ。 工夫した点→苦慮した点への工夫としまして、病棟によっては申し送りノートを作成し、日毎に追加・変更した内容についてはその都度記載をしておりました。ただ各階になると、院内のメールにて情報共有・統一を行なっておりましたが、当院は総合病院であり各病棟の特性も異なる為統一が難しい点もありましたので、そこは今後の課題でもあります。

演題番号36 歌野文

	質問	回答
1	外出制限等フレイル予防で効果的な指導方法についてご教授下さい	ご質問ありがとうございます。フレイル予防の運動としましては、先生方が普段からご指導されている、座位や立位で可能な筋力トレーニング、歩行などの持久力の運動でよろしいかと思われまふ。 今回の研究を通して、入院部門のセラピストの役割として、上記の運動を入院時より指導し、各運動が正しい姿勢で実施できているか、リハビリ以外の時間でも自主運動が定着しているかなどの評価することが、退院後の身体的フレイル予防に対してより効果的な指導かと考えまふ。